



今号の内容「野菜に関する主な研究成果」

- ホウレンソウ栽培における化学農薬使用量低減技術の検討
- 夏秋トマト品種「麗月」の開花時摘花房による集中出荷の抑制効果
- 夏秋ナスのフラワーネット活用による誘引作業の省力化

清流の国ぎふ

ホウレンソウ栽培における化学農薬使用量低減技術の検討 【本所担当／岩腰翔太】

飛騨地域の夏ホウレンソウ栽培では伝染性土壌病害対策としてクロルピクリンくん蒸剤による土壌消毒を行っています。同剤の使用量低減は生産者への負担や持続可能性の観点から重要な課題となっています。そこで、代替技術を開発するため、土壌のpH矯正と各種土壌消毒法の組合せによる土壌病害の発病抑制効果を検討しました。

【試験の方法】

- 1 クロルピクリンくん蒸剤、カーバムナトリウム塩液剤、土壌還元消毒、無消毒の4通りと、pH矯正(炭カル)の有無の2通りを組合せた8つの試験区で栽培試験を実施しました。
- 2 生育途中の健全株率と収穫後の階級別調製重量を調査しました。

【成果の概要】

- 1 カーバムナトリウム塩液剤及び土壌還元消毒により、無消毒に比較して健全株率が増加し、すべての区においてpH矯正により健全株率が増加しました(図1)。
- 2 カーバムナトリウム塩液剤及び土壌還元消毒は、処理方法等に課題を残しましたが、土壌病害への抑制効果が期待できました。
- 3 pH矯正は伝染性土壌病害発病を抑制し、生育を改善する効果が期待できました。

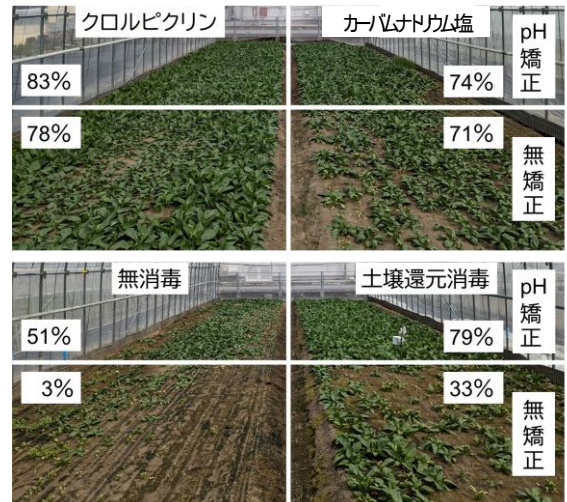


図1 各試験区の生育状況と健全株率

夏秋トマト品種「麗月」の開花時摘花房による集中出荷の抑制効果

【本所担当／矢島隼人】

夏秋トマト品種「麗月」は多収で秀品率が高く、近年の単収向上の一役を担っています。一方で従来品種と同様に8月を中心として収穫・出荷が集中することが、栽培面及び販売面で課題となっています。そこで、開花時の摘花房による8月出荷量の抑制効果と販売単価の高い秋期の生育・収量、果実品質に与える影響について検討しました。

【試験の方法】

- 1 6/30、7/7、7/14に、各株で開花している最上段の花房を1段分摘花房(図2)した区と無処理区を設置しました。
- 2 収量や品質調査を行い、摘花房による時期別収穫量への影響を検討しました。

【成果の概要】

- 1 収量(全期間・秋期)は無処理と比較して大きな差はなく、平均果重及びA品率はやや向上しました(表1)。
- 2 7月上旬の摘花房により8月中旬の収穫抑制効果が期待でき、最盛期に労働力が不足する圃場には有効と考えられました(表1)。
- 3 全ての摘花房区で9月中～下旬の出荷量が無処理よりも減少しました(データ略)。今後年次変動を確認する予定です。



図2 開花している最上段花房を摘除

表1 摘花房による収量と収穫抑制ピーク

区	可販収量(t/10a)		平均果重 秋期(g)	A品率 秋期(%)	収穫抑制ピーク*	
	全期間	秋期			推定時期	日数
無処理	19.0	7.7	140	46	—	—
摘花房 6/30	18.7	8.1	145	52	8/11	42日
摘花房 7/7	17.8	7.6	147	54	8/14	38日
摘花房 7/14	18.8	7.7	146	50	8/22	39日

*収穫抑制ピークは、無処理との差(減少幅)が最大値となった日付

東美濃地域の主要品目である夏秋ナス栽培では、生産者数や作付面積が減少傾向にあり、面積拡大には最も労力を要する誘引整枝作業の省力化が必要です。そこで、慣行の紐誘引の代替えとして、切り花栽培で利用されるフラワーネットを利用した方法について検討しました。

【ネット誘引の方法】

- 1 下段ネットを最初の分枝部から70cm上の位置に張り、次に上段ネットを下段ネットから40cm上の位置に張ります。
- 2 下段ネットと上段ネットに、伸長した枝を通すことでネット誘引を行います。(図3)
- 3 8月上旬又は8月中旬に、上段ネットより上に出た枝を切ることで、更新剪定を行います。

【成果の概要】

- 1 ネット誘引は、慣行の紐誘引と比較した場合、収量性や品質に大きな差はありませんでした(データ略)。
- 2 ネット誘引では、誘引作業時間を紐誘引よりも約8割短縮でき、総作業時間を約3割短縮できました(図4)。
- 3 以上のことから、ネット誘引は規模拡大に有効的な手段と考えられました。



図3 ネットの展張位置

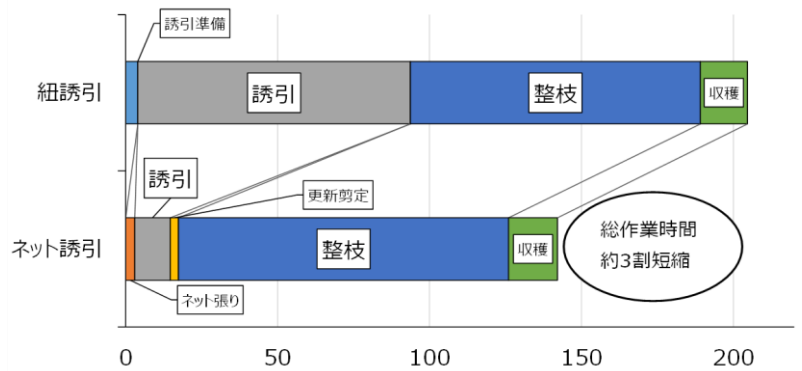


図4 作業別所要時間(時/a・人)

令和6年度 成果検討会を開催しました

本年度の研究成果をお伝えし皆様からご意見・ご要望をいただく成果検討会を開催し、多くの方々にご参加いただきました。有意義なご検討をありがとうございました。今後の研究内容に反映して参ります。

【本所】

日 時：令和6年2月9日
(金)
会 場：飛騨総合庁舎
参加者数：73名(職員除く)
発表課題数：8課題
(農業技術センター2課題、
飛騨農林事務所1課題を含む)



【中津川支所】

(恵那農林事務所農業普及課
との合同開催)
日 時：令和6年2月2日(金)
会 場：恵那総合庁舎
参加者数：75名(職員除く)
発表課題数：6課題
(恵那農林事務所3課題を含む)

